

# 九州正教会だより 第70号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年7月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>

## キリストとの出会いが人生を変える

司祭グリゴリイ 水野 宏



7月12日は聖使徒ペトロ・パウロ祭です。  
正教会ではペトロとパウロの二人は「首座の聖使徒」と呼ばれ、使徒を代表する聖人として位置づけられています。

ペトロは本名をシモンといい、ガリラヤ湖畔で兄弟のアンデレと漁師をしていました。  
ある日、アンデレがイエスと出会い、「何を求めているのか…来なさい、そうすれば分かる（直訳は「来てみなさい」）」（ヨハネ 1:38-39）と言われてついて行き、一晚イエスの話を聞きました。そしてアンデレは兄弟のシモン、後のペトロをイエスに紹介しました。

その後、ペトロとアンデレが漁をしている時、イエスから「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」（マタイ 4:19）と声をかけられて、二人は網、つまりこれまで続けてきた漁師のキャリアを捨てて、イエスの弟子になる人生を選択したのです。「人間をとる漁師」とは、多くの人々に福音を伝える使徒という意味に他なりません。

一方、パウロはタルソスという都市出身で元の名をサウルといい、ガマリエルという律法学者のもとで厳しい教育を受けてきました（使徒 22:3）。そして自身も熱烈的な律法主義者となり、ステファノの殺害に関与する（使徒 8:1）など、キリスト者たちを迫害しました。

しかし、復活したキリストが「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」（使徒 9:5）と言って彼の前に現れ、彼は回心して自らが使徒となりました。つまり、キリストと出会ったことで、迫害していた相手の方が正しかったと分かり、彼の人生は変わったのです。

ペトロもパウロも、そして私たち自身も、人生は人それぞれです。しかし、その人生のどこかでキリストと出会い、信仰を持つことで確実にその後の人生は変わっているのです。キリストの「来てみなさい」という言葉にならい、私たちも多くの人々に自分たちの教会と、そこで祈る私たちの姿を見てもらい、キリストと出会えるように努めていきましょう。